

カバに毛がない訳



✎ Basilio Gimo, David Ker

🎨 Carol Liddiment

💬 Sayuri Hayashi

💬 Japanese

📊 Level 2



ある日、うさぎが川のほとりを歩いていました。



カバもそこで散歩をしながら、すてきな緑の草を食べていました。



カバは、うさぎがそこにいるとは知らず、あやまってうさぎの足を踏んでしまいました。うさぎはカバを見つめてそして叫びました。「おいカバ、わたしの足を踏んでいるのが分からないのか？」



カバは、うさぎに謝りました。「ごめんよ。見えなかったんだ。どうか許してよ」けれどもうさぎは聞き入れず、カバに向かって叫びました。

「わざとやっただろ！今に分かるさ。ただじゃすまないぞ！」



うさぎは火を探しに行き、こう言いました。「行け！草を食べるために水から出てきた時、カバを燃やしてしまえ。やつは、わたしの足を踏んだんだ！」火は「お安い御用です。友達のうさぎさん。お望み通りにやりますよ」と答えました。



その後、カバが川から遠く離れた場所で、草を食べていると「ビュン！」火がつき炎が上がりました。炎はカバの毛を燃やし始めました。



カバは泣き出し、水を求めて走りま
した。カバの毛は全部火によって燃
やされてなくなりました。カバは泣
き続けました。「わたしの毛が火で
燃えた！わたしの毛はすっかりなく
なっちゃった。わたしの美しい毛
が！」



うさぎは、カバの毛が燃やされて、
嬉しくなりました。そして、カバは
この日を機に火を恐れて、水から離
れたところには二度と行かなくなり
ました。



Storybooks Canada

storybookscanada.ca

カバに毛がない訳

Written by: Basilio Gimo, David Ker

Illustrated by: Carol Liddiment

Translated by: Sayuri Hayashi

This story originates from the African Storybook (africanstorybook.org) and is brought to you by Storybooks Canada in an effort to provide children's stories in Canada's many languages.



This work is licensed under a Creative Commons
[Attribution 3.0 International License](http://creativecommons.org/licenses/by/3.0/).